

国連アジア極東犯罪防止研修所 平成30年度第2回保護司国際研修に参加して

福岡東保護区保護司会 小田 哲也

先輩保護司さんより、「東京で国際的な研修があるので推薦しておくね。夕食会で研修員さんと英語で話すだけでいいよ...。」と。そのくらいならいいか、と参加を決定した研修でした。しかし、国連アジア極東犯罪防止研修所（以下「アジ研」）の担当の方より、「自己紹介と発表資料の要約を提出して下さい。」と...。「発表??？」実は、この保護司国際研修は、アジアを中心とする諸外国における犯罪者処遇に関する諸問題について研修すること、さらに、アジ研で「不寛容又は差別を動機とする犯罪に対する刑事司法的対処」というなんだか難しい課題を主要課題とし、その解決のために実施されている約5週間の国際研修（アジア、大洋州、南米地域9か国から13名、日本国内から6名の研修員）の参加者に対し、日本の保護司制度及び保護司の活動等について紹介し、意見交換をするというものでした。

研修初日は、午後のセッションで、9名の保護司がメインテーブルに着席。そして、自己紹介とそれぞれの保護司活動に関して一人10分ずつ発表しました。私は、過去に関わった少年に対する処遇の事例をもとに、家族との関係改善に向けた保護者への関与の必要性や対象者の自己肯定感を高める上での保護司の存在の有用性等を話させていただきました。それぞれの保護司の皆さんは、処遇の事例発表や、各地域での保護司活動とはいかなるものかなどを発表されました。私自身も刺激を受けましたし、日本の保護司制度を知らない研修員の皆さんは、この制度に関してとても興味を持たれたようで、休憩時間に「なぜ、保護司をされているのですか」、「お金はもらえるのですか」などという質問を積極的になさり、このセッション最後の質疑応答の時間にも、時間いっぱいまで、「保護司をしていて難しかったこと」、「高齢の対象者に関しての処遇は何を目的にするのか」など、幅広い分野で間髪入れず質問をなさっていました。

初日の研修を終え、夕食会、懇親会へと...。研修中の硬さとはガラッと雰囲気を変

え，懇親会では，和やかな雰囲気の中，保護司活動に関することや，日本のこと，研修員の皆さんのお国の話などに花が咲き，楽しい時間を過ごせました。私が話したブラジルからの研修員さんは「ブラジルに保護司制度を導入したい。」と話されていました。研修員の皆さんはカラオケや踊りがお好きのようで，歌う，踊るで，楽しい夜も更けていったようでした。翌日は午前中ヘイトクライムに関する研修を聴講させていただき，難しかったです，潜在的に存在するヘイトクライムへの対処に関して活発な意見交換があり，勉強になりました。

当初，夕食会の交流だけ...と思っていた私ですが，この研修に参加させていただき，世界で活躍することを期待されている研修員の皆さんと交流でき，保護司制度を持っている国は世界でも少ないということを知ることができましたし，保護司活動が，罪を犯した人たちが更生するために大きな役割を担っていることを再確認することもできました。

日本の保護司制度を知り，アジ研のスタッフの温かさを体感した研修員の皆さんが，帰国後も人に温かく接し，日本の保護司制度を海外へ広げていき，罪を犯してしまった人がより社会復帰しやすい社会が広がることを期待しています。最後に，有意義な研修を計画・運営いただいたアジ研のスタッフの皆さまへ感謝いたします。ありがとうございました。